成瀬ダムと鳥海ダム

建設の是非、検証開始

県や市町村 早期完成求める声

東北地方整備局

国土交通省東北地方整備局は17日、成瀬ダム(東成瀬村)と鳥海ダム(由利本荘市)の建設の是非を検証するため、県や関係市町村から意見を聴く「検討の場」の初会合を秋田市と由利本荘市で開いた。同整備局は検証の進め方を説明したが、結論を出す時期は示さなかった。建設推進の立場を取る県や関係市町村からは早期完成を求める意見が相次いだ。

本県で検証対象になっている国直轄ダムは成瀬ダムと鳥海ダムの二つ。検討の場は、前原誠司前国交相(現外相)がダムに頼らない治水に向け、事業見直しを打ち出したことを受けて設置された。事業主体の東北地方整備局と県、関係市町村で構成する。

東北地方整備局によると、検証ではダム以外の治水案、利水案をつくり、コストを最重視してダムと比較する。検討の場で議論するほか、住民からも意見を公募。同整備局が対応方針を決めた上で、国交相が有識者会議の意見を聴いて最終決定する。

成瀬ダムの「検討の場」初会合で、意見を述べる佐竹知事

秋田市の国交省秋田河川国道事務所で開かれた成瀬ダムの検討の場初会合で、佐竹敬久知事は「水をストックするためにダムは欠かせない。速やかに完成させるのが筋だ」と強調。成瀬ダム建設促進期成同盟会の会長でもある五十嵐忠悦横手市長も「利水の観点から、ダムを建設するのがベターだ」と語った。

由利本荘市の鶴舞会館であった鳥海ダムの初会合では、長谷部誠市長が「ダム建設は由利本荘市民の悲願。治水、利水の両面からも必要だ」と訴えた。

成瀬ダムでは本年度、転流工や国道342号の付け替え道路の工事を実施しており、本体工事の一歩手前の段階にある。鳥海ダムでは環境影響調査が進められている。

両ダムの検討の場の次回開催日は決まっていないが、東北地方整備局は年度中に開きたい考え。結論を出すまでに少なくとも会合を4回開くことにしており、検証結果がまとまり、国の予算に反映されるのは2012年度以降になりそうだ。

(内田隆之、高野正巳)

「ストップさせる会」

成瀬の建設推進 結論見えている

奥州代表が批判

成瀬ダムの「検討の場」初会合では、関係住民ら18人が傍聴。「成瀬ダムをストップさせる会」の6人も議論を見守り、奥州光吉代表(横手市)は「建設推進の首長ばかりがメンバーになっており、結論が見えている印象だ」と批判した。

奥州代表は7月、住民を交えた第三者機関が検証を進めるよう国交相に要望。国や自治体が中心となった検証では「必要の大合唱」の場になると懸念したためだったが、この日の初会合は予測していた通りの内容だった。

その一方、公開の場で検証を進めることや住民から意見を募ることは意義があると受け止めている。「住民の意見を取り入れ、少しでも中身のある代替案をつくってもらいたい」と話した。

(内田隆之)

アンテナ

放送大学・御手洗理事長

幅広い世代が利用

学習サポート態勢整備

放送大学(本部千葉市)の御手洗康理事長(64)=写真=が17日、秋田魁新報社を訪れ、幅広い世代が利用する同大の魅力を語った。

同大はテレビやラジオなどで授業が受けられる通信制大学。教養学部と大学院を合わせ約370科目を開設している。現在の学生数は約8万5